1 自己評価

I 評価結果

項目	成果と課題（達成状況）	評定
学力向上 GIGA スクール構想	<ul style="list-style-type: none"> ・「一人も取り残さない」をテーマに学習環境づくりや授業改善を全職員で徹底し、特に学習障害を持つ生徒の理解と対策のための研修を行った。全体として「授業がわかりやすい」と回答した生徒は91%と多いが、英語については肯定率が上がらず、今後、小学校と連携し、取り組む予定である。 ・家庭学習については、自分で課題を設定し、取り組む習慣がついた生徒が増えた一方で、全くしない生徒も増加しており、二極化が進んだ。 ・ICTを活用した授業、出欠連絡、健康観察、会議の効率化等、先進的な取組を行い、生徒、保護者から高評価を得ている。働き方改革にもつながった。 	B
教育相談 不登校対策	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分にはよいところがある」「学校は楽しい」といった項目が伸びており、人権学習や自主的な生徒会活動、地域との連携事業等、様々な活動を通して、自己肯定感の向上につながっていると考える。 ・自立応援室の活用や関係機関との連携、また予防的対策としての心理教育や集団づくり等に取り組む、昨年度に比べ不登校の生徒数が減った。外部と連携したさらなる対策を工夫、継続し、不登校の解消につなげたい。 	A
自主・創造活動 地域連携	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の自主・創造プロジェクトチームを中心に、生徒の主体性や創造性を培う取組を企画、実践した。生徒の自治力が高まり、一人一人の個性を活かした活躍の場面も広がっている。 ・コミュニティスクール開校3年目となり、質の高い地域との交流活動が行われた。生徒の地域への愛着や貢献したいという思いが高まってきている。 (小・大との学習会、生徒による講座開設、部活動体験会、地域の方による面接練習等) 	A

(A：目標を上回っている B：ほぼ目標どおり C：目標を下回っている)

II 分析・改善方策

学校の重点課題を挙げ、全職員で徹底して取り組んだ。プロジェクトチーム間の連携も図られ、より機動的、効率的な取組となった。生徒、保護者アンケート調査でも向上した項目が多く、教職員のモチベーションの向上につながっている。来年度も学校自己評価を基に重点項目を絞り、地域と連携しながら創意ある取組みに挑戦していきたい。

2 学校関係者評価委員会（学校運営協議会委員）

甲田 敦三（学校運営協議会委員長） 土井 孝明（校友会会長） 花谷 周治（校友会副会長）
赤座 眞由美（元PTA役員） 安東正人（勝北公民館館長） 小林久子（地域コーディネーター）
上高 進（町内会長代表） 鈴木 壮俊（学識経験者） 川崎 晴久（元PTA役員） 寺坂かおり（PTA会長）

3 学校関係者評価

- ・学校の行事に関心を持ち、参加する保護者が減ってきている。学校の方針をしっかりと示し、任せっきりでなく、自分事として学校に足を向けてもらえるような取組の工夫が必要である。学校、地域、保護者が一体となり、連携を図ることでさらなる成果も上がるはず。
- ・コミュニティスクール開校に向けた準備期間からの3年間で、地域と学校の交流が深まり、協働体制をしっかりと築くことができた。今年度から設置された学区の小学校の運営協議会と合同会議を行った。今後も連携を図り、地域が一体となった効率的、効果的な活動にしていきたい。

4 来年度の重点取組（学校評価を踏まえた今後の方向性）

学校評価を踏まえ、令和7年度、重点的に取り組む内容として以下の3点を挙げる。
来年度も地域と協働しながら取組を推進していきたい。

- 学力向上 → 「一人も取り残さない授業づくり」の継続。家庭学習の推進。
- 教育相談 → 自立応援室の効果的な運用。計画的、継続的な心理教育、集団づくりの実施。
関係機関や地域と連携したチームによる不登校対応。
- 自主、創造活動 → 地域の人や物との出会いを通して、地域と連携した生徒が主体の学校づくり。